グローバル人材育成のための茶道を取り入れた英語教育

カレイラ松崎順子　岡田靖子　小林ゆみ　榊原かをり
齊藤涼子　杉田千香子

1. はじめに

経済広報センター（2013, p. 8）の「グローバル人材の育成に関する意識調査」において「グローバル・ビジネスで日本人人材が持つべき素質，知識・能力」として，「外国語によるコミュニケーション能力」はもちろんのこと「日本文化・歴史に関する知識」があげられている。また，日本経済団体連合会（2015, p. 7）の「グローバル人材育成のため，初等中等教育で取り組むべき施策」によると，語学教育やグローバル化教育に関連する項目を大きく上回って「国語教育や日本の歴史・文化等に関する教育を推進」が上位に来ている。これらのことから，グローバル化とは英語を学ぶことだけではなく，日本・日本の文化を知ることから始まるといえる。すなわち，海外・世界などの外側を志向するからこそ，日本・日本文化などの内側に目を向ける必要があり，「自分の文化を知る」ことはグローバル人材育成のために必須のことであろう。しかし，不思議なことに，グローバル人材育成のために英語教育を強化したり，日本語による日本・日本文化の指導を行ったりしている大学は多いが，両者を組み合わせて日本文化を英語で指導している大学はまだ少ない。

ところで，日本の伝統文化の代表として茶道があげられる。特に，和食が 2013 年に世界遺産に認定されて以来，和食や抹茶がアメリカやヨーロッパをはじめ世界各地でブームになっており，茶道に関心を持つ外国人も増えている。茶道は「五感すべてによる鑑賞というユニバーサルな総合芸術」（的場，2021, p. 21）であり，「集中（あるいは思考）とコミュニケーション（会話あるいは所作）による，美的（知的でありかつ感性的な）経験」（的場，2021, p. 21）を通して，知的・道徳的情操を育むことができるため，教材として上手に教育に取り入れるなら高い学習効果を期待できる。

本研究では日本・日本文化を英語で世界に発信できるグローバル人材の育成のために，茶道に着目し「英語で茶道」の動画作成を行うことにした。茶道を英語で学ぶということは，体を動かしながら全身で英語を学ぶため，Total Physical Response（TPR）であるといえる。さらに，茶道の内容にフォーカスをおきながら英語を学び，日本の伝統文化についての

思考を促し，亭主と客がコミュニケーションを行う茶道は，「内容（Content）」「言語（Communication）」「思考（Cognition）」「協学（Community）」の4つの構成要素からなるContent and Language Integrated Learning（CLIL）教材としての大きな可能性を持っているといえるであろう。ゆえに，本研究では都内私立大学の学生を対象に茶道を英語で学ぶ課題を出し，彼らが茶道を取り入れた英語学習について何を感じ，どのように思ったのかを明らかにしながら，「グローバル人材育成のための茶道を取り入れた英語教育」の可能性を探っていくことにした。

2. 茶道を教育に取り入れた研究

今まで茶道を教育に取り入れた実践研究はいくつか行われおり，たとえば，嶋内・橋本・柳井・橋本（2021）は「茶道教育の充実によって，日常生活においても徳性と品格の芽生えが見られるようになる」（p. 38）との仮説を立て，小・中・大連携の茶道のカリキュラム開発を行った。その結果，児童・生徒は茶道の授業を楽しいと感じ，興味関心や充実感をもって取り組む姿勢が育ちつつあると報告している。山田（2018）は留学生と日本人児童との「茶道」「伝統的な日本の遊び」の共修を行い，より深い交流の前準備として，お互いの不安感を取り除くこと，さらに日本文化に対する苦手意識を払拭させることを試み，年代の違いをこえた共修の在り方について提案している。

大学生を対象に行われた研究も行われており，たとえば，上村・林（2013）は茶道を大学の授業に取り入れたところ，「集中力」「注意された事に対する適応能力」「準備片付けなどの授業外活動の積極的な参加」「点前の上達」において効果がみられたことから，茶道教育を行うことにより，知識以上のものが得られる可能性があることを指摘している。川原他（2018）は短期大学2年間での「茶道文化」教育の教育効果を測定するため，2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」の可視化を追求したPROGテストを3回実施した結果，社会人基礎力のうち「親和力」や「協働力」の点で変化があったことを実証している。山本・陳・中池（2021）は「伝統文化論（茶道）」を受講した学生は机上で学ぶ知識以上のものを学び，茶道の修道体系である三要素の「道・学・実」に触れ，茶道における「おもてなし」の心を体感できたと報告している。このように近年茶道を教育に取り入れる研究が増えており，茶道を教育に導入する効果として知識以外の「集中力」「親和力」「協働力」などの向上が報告されている。

一方で，英語の授業に茶道を取り入れた研究も少ないながらもいくつか行われている。たとえば，田中・カレイラ（2012）は大学の通信課程のスクーリングの英語の授業に茶道に関するプレゼンテーションを取り入れた結果，ほとんどの学生が授業に満足し，楽しんでいたと報告している。また，櫛山（2020）は「大学の英語教育ではグローバル人材育成を目指し，

語学力の向上と異文化理解を学習目標とするが，主体性・積極性や日本人としてのアイデンティティーは重視されないことが多い」（p. 96）と述べ，「日本人としてのアイデンティティーを育てる手段として」（p. 96）外国人留学生を対象とした茶道を含めた日本の伝統文化体験会を行い，日本人学生が英語のサポートに入るという授業実践を行っている。

以上のことから茶道を教育に取り入れる試みは多く行われているが，英語教育に取り入れた研究は少なく，特に，TPR や CLIL という観点での茶道の研究は行われていない。

3. 本研究の目的

茶道は知的・道徳的情操を育む（的場，2021）という教育的効果があると同時に，動作を伴うため TPR 教材となり，茶道の内容にフォーカスを置くのであれば CLIL 教材にもなりうる。また，グローバル社会における「日本人としてのアイデンティティーを育てる手段」（櫛山，2020，p. 96）という観点からも茶道は優れた題材となるであろう。よって，本研究では「英語で茶道」という動画教材を作成し，それらを大学の英語の授業に取り入れ，学生の反応を見ながら茶道の英語教材としての可能性を探ることにした。すなわち，茶道を英語で学ぶ動画を作成し，それらを課題として大学の英語の授業に取り入れたことを学生がどのように感じたかを明らかにすることが本研究の目的である。

4. 方法

4. 1. 「英語で茶道」の動画作成

背景知識を利用した動画作成

日本語での背景知識による英語教育における効果は藤上（2013）が明らかにしているが，本研究でも日本語の背景知識を利用することにした。そのため，茶道の歴史・精神に関する動画の日本語版（https://youtu.be/hYBjBbOYdrE）と英語版（https://youtu.be/HefHnLZQu8）の 2 種類を作成した。

TPR の概念をもとにした動画作成

ハワイ大学で茶道の授業を担当する教員が動画の出演・監修を行い，その他の具体的な編集作業は筆頭著者が行った。作成した動画は以下の 5 本である。なお，どの動画も動作や内容に関する英文が表示されると，表示された英文が読み上げられる構成にした。

①「お茶の飲み方を英語で学ぶ」（https://youtu.be/XtaLznVPbP0）は抹茶の飲み方を英語で学ぶ動画であり，「日本語解説付きの英文」「英語のみ」「重要英単語の復習」の 3 つのパートから構成されている。

②「盆略手前を英語で学ぶ」（https://youtu.be/vzLCmhloM3Y）はテーブルで盆略手前を学ぶ動画である。盆略手前というのはお盆の上で行うお点前のことであり，裏千家において最初に習う基本的なお点前の一つである。
③「茶筅のみを使用したカジュアルな茶道を学ぶ」（https://youtu.be/LvUTUIpVXts）は茶筅のみを使用したテーブルで行う茶道を英語で紹介した動画である。
④「茶筅・茶杓・棗を使ったカジュアルな茶道を学ぶ」（https://youtu.be/KuNFSiAsodw）は茶筅・茶杓・棗を使用したテーブルで行う茶道を英語で紹介した動画である。
⑤「お辞儀を英語で学ぶ」（https://youtu.be/_WQh4YcyDZM）はお辞儀の仕方を英語で学ぶ動画であり，日本語解説付きの英文と英語のみの２つのパートに分かれている。

4. 2.　研究の方法

東京近郊の４つの私立大学に在籍する大学生 312 名が参加した。本研究を実施した 2021 年５月から７月は，新型コロナ感染症の影響で，対面授業になったり，オンラインになったりで授業形態が定まらない時期であったため，授業中には行わず，毎回の授業で教員が以下のような課題を６回出した。学生は次の授業までに学習した感想を日本語 200 字以上で書いて提出した。

第１回　茶道の歴史や精神

以下の URL〈https://tabunka.carreiraenglish.com/sado/〉に日本語と英語の茶道の歴史や精神に関する動画（日本語と英語）と解説を掲載した。最初に日本語で茶道の背景知識をつけて，次に英語で同様の内容の動画を視聴するように指示をした。

第２回　お茶の飲み方

以下の URL〈https://tabunka.carreiraenglish.com/drinktea/〉にお茶の飲み方を英語で学ぶ動画と解説を掲載した。参加した学生は動画に合わせて聞こえてくる英語を同時に発話しながら３回練習を行い，できる場合は見ないで英語を発話（シャドーイング）するように指示した。シャドーイングは外国語学習の方法として授業などでも取り入れられており，シャドーイングを繰り返すことで音声知覚が自動化され，復唱能力が発達した結果，リスニング能力が向上するといわれている（門田，2011）。

第３回　盆略点前を英語で学ぶ

以下の URL〈https://tabunka.carreiraenglish.com/bonryaku/〉に盆略手前を英語で学ぶ動画と解説を掲載した。

以下のような手順で学習を行うように指示した。

1. 動画を１回視聴し，解説を１回読む。
2. 以下の問いに英語で答える。

・What is “fukusa”?

・In order to wipe the tea bowl, what and how does the host do with the linen napkin?
・How many times does the host scoop the green tea powder from the tea container?
・Why does the host tap against the rim of the tea bowl with her tea scoop?
・Why does the host turn the tea bowl twice clockwise before offering the tea to the guest?
・How many times does the host pat the “fukusa” above the wastewater receptacle to dust off the green tea powder?

3. 動画に合わせて聞こえてくる英語を同時に発話しながら 2 回練習し，できる場合はシャドーイングを行う。

第 4 回　茶筅のみを使用したカジュアルな茶道

以下の URL〈https://tabunka.carreiraenglish.com/casualsado/〉に茶筅のみを使用したカジュアルな茶道の動画と解説を掲載した。

以下のような手順で学習を行うように指示した。

1. 動画を 1 回視聴し，解説を 1 回読む。
2. 以下の問いに英語で答える。

・Why does she lift the whisk slightly up to brush the surface of the tea after there is froth on top?
・What should you keep in mind while you are making tea?（2 つ）
・What should you keep in mind before making tea?（2 つ）

3. 最後に動画を 2 回視聴し，画面に書かれている英語を声に出しながら同時に読むか，あるいはシャドーイングを行う。

第 5 回　茶筅・茶杓・棗を使用したカジュアルな茶道

以下の URL〈https://tabunka.carreiraenglish.com/stay-home-chado/〉に茶筅・茶杓・棗を使用したカジュアルな茶道の動画と解説を掲載した。

以下のような手順で学習を行うように指示した。

1. 動画を 1 回視聴し，解説を 1 回読む。
2. 以下の問いに日本語で答える。

・なぜ，お茶を濾すのですか？
・茶道では棗に抹茶を入れるとき，どんな形に作るのですか？
・抹茶を入れる前に，茶碗を水でぬらさないと茶碗はどうなりますか。
・お茶をたてる前に，茶筅をぬらすとどんな利点がありますか。
・1 杯につきどれくらいの抹茶を入れるのですか。

3. 最後に動画を 2 回視聴し，画面に書かれている英語を声に出しながら同時に読むか，あるいはシャドーイングを行う。

第6回　お辞儀

以下のURL〈https://tabunka.carreiraenglish.com/ojigi/〉にお辞儀についての動画と解説を掲載した。

以下のような手順で学習を行うように指示した。

1. 動画を1回視聴し，解説を1回読む。
2. 最後に動画を2回視聴し，画面に書かれている英語を声に出しながら同時に読むか，あるいはシャドーイングを行う。

4.3.　質問紙調査

茶道を取り入れた英語の実践授業が学習意欲を促進するものであったかどうかを調べるためにKeller（1983）によって提唱されたARCS動機づけモデルによる学習者評価を行った。ARCS動機づけモデルは，学習意欲を「注意」（Attention），「関連性」（Relevance），「自信」（Confidence），および「満足感」（Satisfaction）の4側面からとらえ，学習者のプロフィールや学習課題／環境の特質に応じた意欲喚起の方略をシステム的に取捨選択して教材に組み入れていこうとするものである。本研究では鈴木（1995）を参考にし，下記の4つの質問項目を作成した。

・項目1「茶道を英語で学ぶことは楽しかった」（注意）
・項目2「茶道を英語で学ぶことはやりがいがあった」（関連性）
・項目3「今回学んだ茶道の英語は理解できた」（自信）
・項目4「茶道を英語で学ぶことに満足した」（満足感）

参加した学生は各項目において「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「まあまああてはまる」「あてはまる」から自分にあてはまるものを1つ選んだ。さらに，「茶道を英語で学んだ感想を自由に書いてください」という自由記述式の項目も設けた。

4.4.　分析方法

ARCS動機づけモデルの項目に関しては各項目の回答した人数と割合（パーセント）を示した。自由記述式の分析（各回の課題の感想と最後に行った質問紙調査）に関しては，計量的テキスト分析ソフトであるKH Coderを用いた。第一に，形態素分析を実施し，頻出語の抽出を行った。学生の感想が推測できる品詞として動詞・形容詞・形容動詞をとりあげ，これらの頻出語彙10位までを抽出した。さらに，共起ネットワーク分析にて各用語間の関連性から参加した学生の感想の傾向をつかんだ。なお，共起ネットワーク分析とは「出現パターンの似通った語，共起の程度が強い語を線で結んだネットワークとして描き，語と語が互いにどのように結びついているか読み取れるものである」（四方・大谷・北出・小川・福田，2017，p.66）。強い共起関係ほど太い線で表示され，また，語の出現数に応じてそれぞ

れの語（node）を表す円のサイズが変化し，出現数が多い語ほど大きい円が描かれる（樋口，2020）。

5. 結果

5. 1. 第 1 回の課題の感想

第 1 回は茶道の歴史と精神について日本語と英語で学んだ。第 1 回のテキストデータは文章数 1,610, 総抽出語数 49,525 語，分析対象語数 18,110 語であり，異なり語数 2,492 語，分析対象異なり語数 1,185 語であった。表 1 は「第 1 回の課題の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。動詞の 9 位に「驚く」，形容詞の 5 位・6 位に「面白い」「興味深い」が，形容動詞では「大切」「大事」「重要」という語彙が上位に頻出された。これらのことからある一定数の学生が今回の授業内容を「面白い・興味深い・大切・大事」と感じたことがわかる。

表 1 「第 1 回の課題の感想」に頻出した動詞・形容詞・形容動詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
1 位	思う	570	多い	71	大切	82
2 位	知る	424	良い	57	大事	35
3 位	感じる	171	深い	40	必要	26
4 位	見る	168	難しい	34	華やか	23
5 位	学ぶ	136	面白い	30	好き	22
6 位	聞く	98	興味深い	29	様々	22
7 位	飲む	95	詳しい	29	重要	20
8 位	持つ	92	長い	24	自然	16
9 位	驚く	89	素晴らしい	18	大変	16
10 位	分かる	57	強い	16	簡素	15

図 1 は「第 1 回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。第 1 回の課題では茶道の歴史と精神について学んだため「精神」-「茶道」-「知る」や歴史に関する名詞「平安」-「時代」-「最澄」などの共起関係がみられた。さらに，上記の頻出語彙の結果で抽出された「驚く」「面白い」を含んだ共起関係を探すと「流派」-「多い」-「驚く」と「今回」-「動画」-「見る」-「面白い」という共起関係があり，茶道の流派が多いことに驚いている学生や今回の課題の動画を面白いと感じている学生が多くいたことが推測できる。さらに，「英語」-「日本語」-「理解」-「聞く」にも共起関係がみられた。

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「流派」-「多い」-「驚く」に関係する記述例

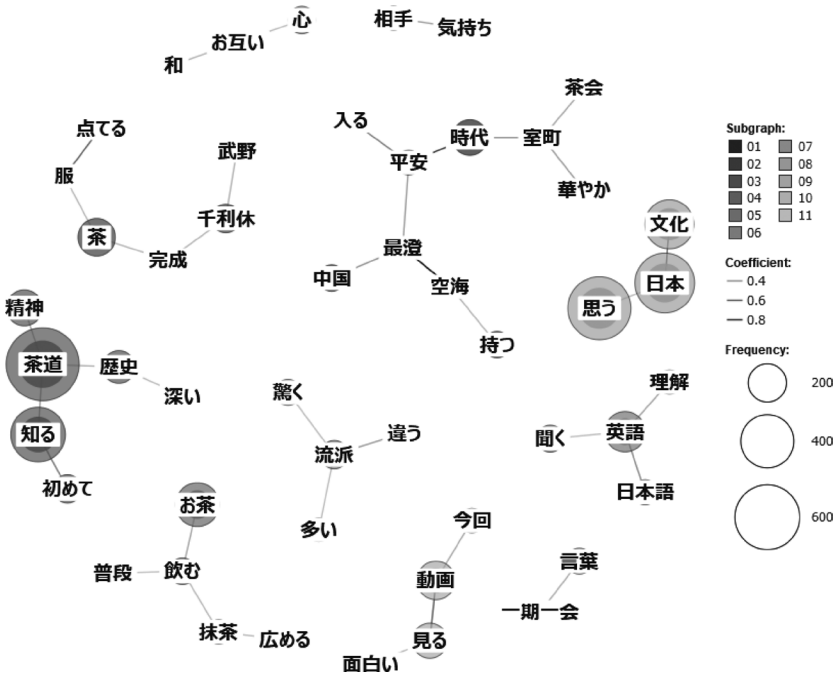

図１ 「第１回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果

・茶道に関して個人的に**驚いた**のが，**流派**があることでした。

・「一期一会」の語源が茶道からきていることや，私たちが普段から飲んでいる煎茶に 36 もの**流派**があることに**驚き**ました。

「面白い」に関係する記述例

・茶道が具体的にどのようなものなのかを知らなかったので，動画を見ていて**面白かった**。

・日本の文化を知るだけでなく，外に発信していくことも大事だと思うので，日本の文化を英語でも学んでみようという，この試みも**面白い**と思いました。

・英語で日本の伝統文化について学ぶというのは風変わりな体験で，自分の知らないことを知ることができて**面白かった**。

「英語」-「日本語」-「理解」-「聞く」に関係する記述例

・予め**日本語**で茶道について学習していたことで，**英語**の解説動画を見たときに**理解**できるようになった。字幕のない動画だったが，このような形態であれば比較的抵抗感なく視聴できそうである。

・**英語**で字幕をつけて，聞いてみたのですが，最初に**日本語**で**聞い**たからか，内容が結構入ってきやすかったです。

・**英語**で聞くのは，やっぱり難しいのですが，**日本語**で意味を**理解**してからだと**理解**しやすいなと思いました。

5. 2.　第２回の課題の感想

第２回のテキストデータは文章数 1,610, 総抽出語数 44,006 語，分析対象語数 16,765 語であり，異なり語数 2,401 語，分析対象異なり語数 1,994 語であった。表２は「第２回の課題の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。第２回ではお茶の飲み方を英語で学ぶ動画を学習したため，動詞は「飲む」「回す」が上位に抽出された。形容詞では「難しい」が最も多く，その他，「細かい」「美しい」「深い」「面白い」が，形容動詞では「大変」が最も多く頻出した。これらのことから第２回の「お茶の飲み方」の内容を「難しい」・「大変」だけれども，「細かい・美しい・深い・面白い」と感じた学生が多かったことが推測できる。

表２　「第２回の課題の感想」に頻出した動詞と形容詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
1 位	思う	524	難しい	110	大変	36
2 位	飲む	418	多い	77	簡単	27
3 位	知る	268	細かい	69	丁寧	26
4 位	見る	190	良い	30	大切	24
5 位	感じる	167	美しい	18	重要	22
6 位	覚える	105	深い	17	必要	17
7 位	回す	104	面白い	17	大事	16
8 位	学ぶ	98	正しい	16	新鮮	15
9 位	使う	69	詳しい	14	様々	14
10 位	驚く	64	素晴らしい	13	スムーズ	13

図２は「第２回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。「お茶」-「飲む」-「抹茶」-「知る」-「初めて」が共起関係として抽出された。さらに，「実際」-「難しい」-「英語」-「日本語」-「説明」-「理解」-「意味」という共起関係も見られた。これらのことから多くの学生が実際に行ってみて難しかったと感じたことが予測できる。また，「教える」-「外国」-「機会」-「日本」-「伝統」-「文化」にも共起関係がみられた。

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「実際」-「難しい」に関係する記述例

・**実際**に茶碗の回し方だけ少し，夕飯を食べているときにやりましたが，**難しかった**です。

・**実際に**お茶を淹れて一連の動作を行ってみたが，次に何をすれば良いか忘れてしまったり細かく膝の上に肘を置く動作があったりと**難しかった**。

「外国」-「教える」に関する記述例

・英語で抹茶の飲み方を説明できるようにして，**外国**人に**教えられる**機会があったら**教えて**あげられるようにしたいです。

・お抹茶の飲み方はカップがあれば**教えられて**，お点前の方を行うより**外国**の方に**教え**やす

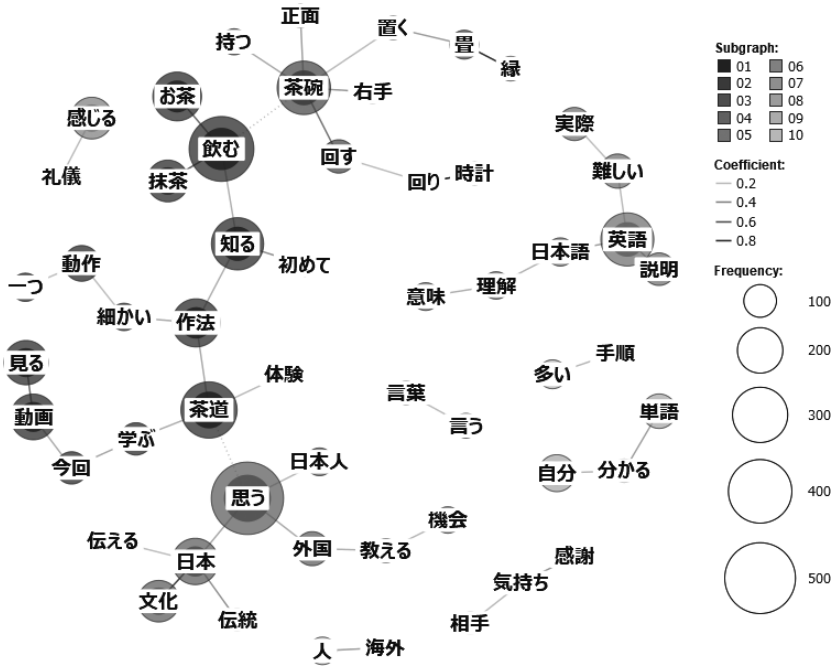

図２ 「第２回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果

いし，日本を代表する文化のひとつなので英語で覚えてみたいなと思いました。

・お茶は日本の文化だとわかっているけど，**外国**人の方に**教えられる**茶道の知識は全くなく，文化なのに本格的に体験したことがないので，一回くらいちゃんとした茶道の体験をしてみたいなと思った。

・確かにこれを**外国**の方に**教える**のはとても喜んでもらえるし，より日本に興味をもってもらえると思いました。

・まだ**外国**人に**教えられる**ほどの知識と英語力は身についていないけど，この動画を繰り返し見て，いつか**外国**人に**教えられる**ようにしたいです。

5. 3. 第３回の課題の感想

第３回目は簡略した盆略手前の動画を英語で学習した。第３回のテキストデータは文章数1,266, 総抽出語数 38,113 語，分析対象語数 14,734 語であり，異なり語数 2,391 語，分析対象異なり語数 2,028 語であった。表３は「第３回の課題の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。動詞では「思う」が，形容詞では「難しい」が最も多く，その他「細かい」「面白い」「美しい」「深い」などの語彙が上位に抽出された。さらに，形容動詞では「丁寧」「綺麗」「大変」が上位に抽出された。これらのことから本研究に参加した学生は第３回目の盆略手前の内容を「難しい」と感じながらも，「細かい・美しい・深い・面白い・

丁寧・綺麗」と感じたことがわかる。

表３ 「第３回の課題の感想」に頻出した動詞・形容詞・形容動詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
1 位	思う	476	難しい	103	丁寧	33
2 位	知る	226	多い	89	綺麗	29
3 位	感じる	177	細かい	51	大変	28
4 位	見る	154	良い	34	必要	27
5 位	聞く	82	面白い	19	大切	25
6 位	使う	77	美しい	17	手軽	19
7 位	学ぶ	69	詳しい	16	簡単	17
8 位	行う	68	高い	13	気軽	16
9 位	分かる	67	深い	13	苦手	16
10 位	飲む	60	正しい	10	新鮮	12

図３は「第３回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。「日本」-「文化」-「海外」-「外国」や「難しい」-「英語」-「理解」-「内容」-「日本語」の共起関係が見られた。

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「日本」-「文化」-「海外」-「外国」に関係する記述例

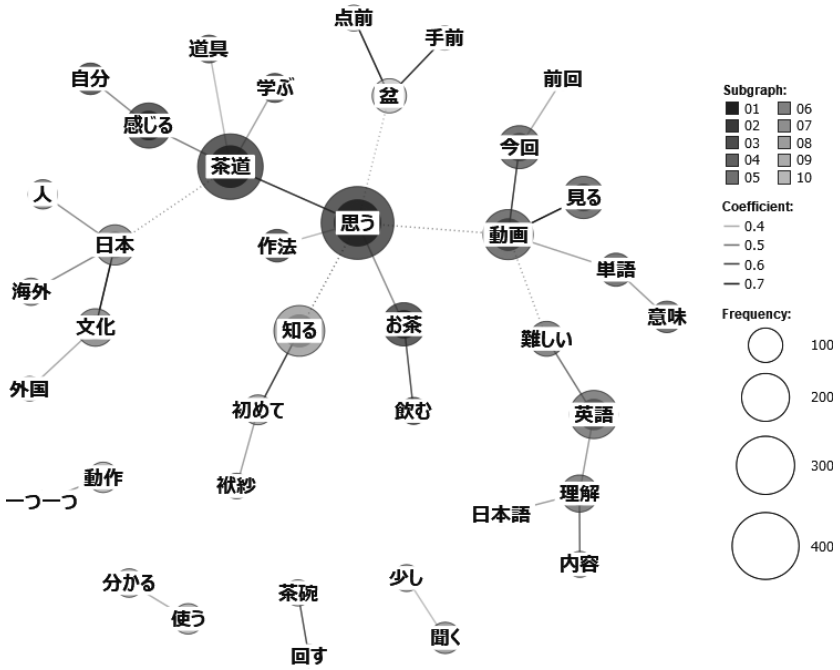

図３ 「第３回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果

・仮に，**外国**人の友達や知り合いができたときに唯一英語で**日本**の**文化**を伝えることができると思った
・このカジュアル茶道なら**海外**に行った時に**外国**人に披露して一緒に出来るなと思いすごいいいなと思いました。
・**海外**に行ったときにもし**外国**人に茶道を教えてくれと言われたら，**英語**でしっかりと説明出来るように，これからの授業で練習していきたいと思った。

5. 4.　第 4 回の課題の感想

第 4 回目はカジュアルなお茶のたて方を学ぶ動画を使用した。第 4 回のテキストデータは文章数 1,173，総抽出語数 35,845 語，分析対象語数 13,621 語であり，異なり語数 2,247 語，分析対象異なり語数 1,870 語であった。表 4 は「第 4 回の課題の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。動詞では「驚く」が 61 回頻出されていた。形容詞では「難しい」「細かい」「美しい」が今までと同様に上位に抽出された。形容動詞においては「簡単」「気軽」「手軽」「カジュアル」などの語彙が増えた。これはカジュアルなお茶のたて方を学んだためであろう。

表 4 「第 4 回の課題の感想」に頻出した動詞・形容詞・形容動詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
1 位	思う	505	難しい	75	簡単	64
2 位	感じる	140	多い	49	必要	38
3 位	知る	136	細かい	41	気軽	31
4 位	見る	118	良い	33	大切	26
5 位	学ぶ	84	高い	18	大変	21
6 位	作る	84	美味しい	15	手軽	20
7 位	使う	79	少ない	13	カジュアル	18
8 位	分かる	72	詳しい	13	身近	18
9 位	入れる	66	無い	12	重要	13
10 位	驚く	61	美しい	11	丁寧	12

図 4 は「第 4 回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。強い共起関係として「茶道」-「家」-「感じる」-「学ぶ」-「多い」-「外国」-「海外」-「日本人」-「教える」や「思う」-「驚く」-「人」-「自分」-「簡単」-「茶筅」が抽出された。また，「シャドーイング」-「難しい」-「単語」-「少し」という共起関係も見られた。

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「茶道」-「家」-「感じる」-「学ぶ」-「多い」-「外国」-「海外」-「日本人」-「教える」に関係する記述例

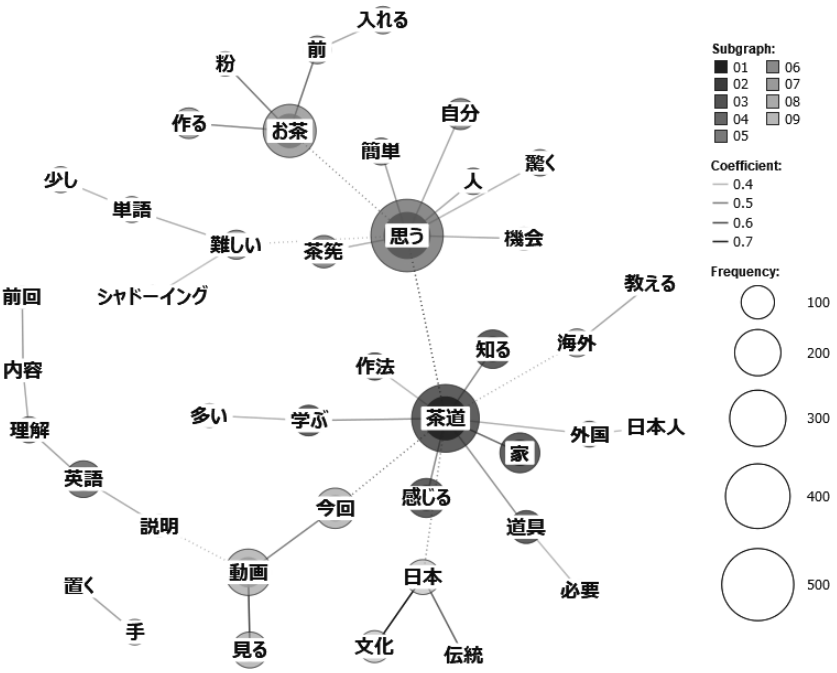

図４「第４回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果

・もし**海外**にホームステイで行く機会があったら日本で練習してから**海外**でやってみたいと思います。片手が動いているときはもう片方の手は動かさない，抹茶はこしておく，温かい水を入れるなど茶道を行う前にも様々な準備，心得が必要な**茶道**は**日本人**のように繊細で本当に日本らしい伝統文化だなと思いました。何か機会があったら**茶道**の一式を買って試してみたいです。

・まったく知らなかった**茶道**についてたくさんのことを学んでいけてとても嬉しいです。**外国**の方が日本の伝統的なものに関心が高いように，**日本人**である自分ももっと自国の文化を知って，**学ん**で，実際にしてみるという行為をしていきたいなと強く感じました。

・**外国**人の方達が日本にきた時にやはり日本の文化に大変興味を持つと思います。やはり**日本人**であるからには自分の国の文化を少しでも知っておかなくてはならないと思いました。また，さらに動画などを見て勉強したいと思いました。

「驚く」に関係する記述例

・カジュアルな茶道と書いてあったので楽なものを想像していたが，思っていたよりも簡略化されていて**驚い**た。自分としては見たところ，抹茶を除けばすべて洋のものに見えたので，抹茶や茶道が外国にこのほうが広まりやすそうだと感じた。今まで茶道は道具が高そうだったり，作法が多そうで難しそうという印象だったが，すこし楽な方に印象が変わった。

・本当に**驚いた**のが**茶筅**さえあれば他のものは家のもので代用できることです。
・茶道の道具が完全に揃っていなくても茶道を楽しめるというところが非常に柔軟でいいと思いました。何か古くから伝わってきた文化，伝統と聞くと，堅苦しく，形式を最優先するようなイメージが私の中にはありましたのでこの点に大変**驚き**ました。

「シャドーイング」-「難しい」-「単語」-「少し」に関係する記述例

・今回の課題を終えて，さらに**シャドーイング**がスムーズに行えるようになりました。
・第四回ということもあって**シャドーイング**にも少し慣れ始めているのを少しばかり実感しています。ただの音読よりも**シャドーイング**のほうが難易度も上がっているせいか上達スピードも速いように感じられました。
・実際に説明されている動作が動画上で行われているのでイメージがしやすく，話されている内容もそれに基づいて理解することができたと思う。またこのような実践的な英語学習を通じて様々な知らない単語を学ぶことができたり，何回か**シャドーイング**を行うことによって自分の英語の能力が**少し**ずつだが向上されているのかなと思うのでこの特別課題に限らず自分で英語の長文などを**シャドーイング**したりしようと思った。

5.5.　第５回の課題の感想

第５回目もカジュアルなお茶のたて方（茶筅・茶杓・棗を使用）を学ぶ動画を使用した。第５回のテキストデータは文章数 1,219, 総抽出語数 36,695 語，分析対象語数 14,058 語であり，異なり語数 2,213 語，分析対象異なり語数 1,843 語であった。表５は「第５回の課題の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。動詞では「濡らす」「濾す」がそれぞれ 70 回頻出されており，形容詞では「丸い」「柔らかい」が，　形容動詞では「必要」「簡単」「大切」が上位に抽出された。

表５　「第５回の課題の感想」に頻出した動詞と形容詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
1 位	思う	467	細かい	60	必要	42
2 位	入れる	198	難しい	56	簡単	33
3 位	知る	182	多い	53	大切	23
4 位	感じる	126	良い	40	大変	21
5 位	学ぶ	107	美味しい	25	丁寧	19
6 位	見る	107	深い	17	カジュアル	15
7 位	作る	83	丸い	15	スムーズ	13
8 位	濡らす	78	素晴らしい	15	様々	12
9 位	濾す	74	柔らかい	14	気軽	10
10 位	分かる	69	新しい	12	重要	10

図５は「第５回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。強い共起関係として，「茶道」-「感じる」-「学ぶ」-「今回」-「動画」-「英語」-「学習」や「思う」-「難しい」-「覚える」-「細かい」が抽出された。

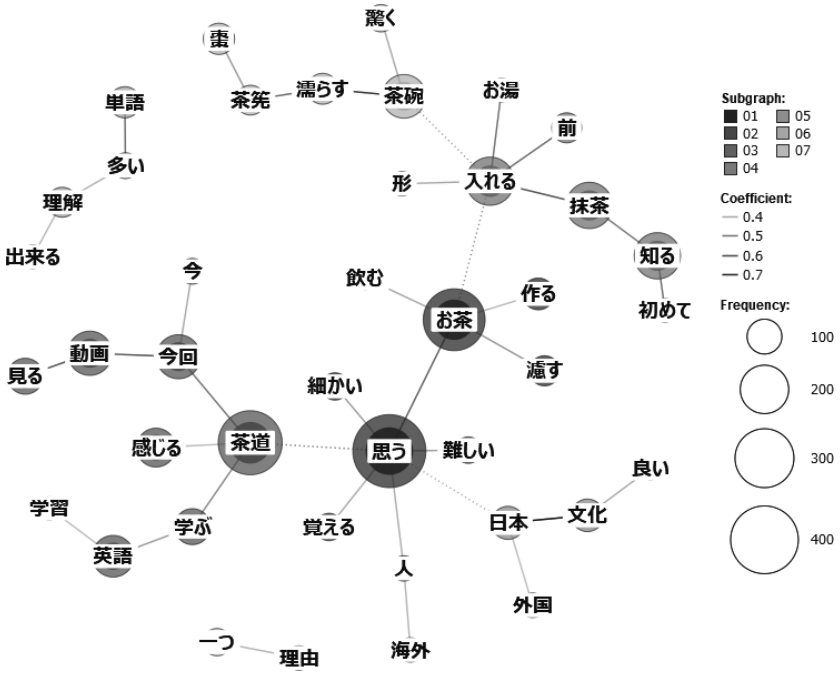

図５ 「第５回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「茶道」-「感じる」-「学ぶ」-「今回」-「動画」-「英語」-「学習」に関係する記述例

・**動画**の中で動作だけでなく，その動作や準備がなぜ必要なのかについても説明してくれるのでとても勉強になる。ほとんどが家にあるものでできるので**茶道**が身近なものに**感じ**られてとても良いと思う。次回の**英語**で**茶道**にも楽しみながら取り組み，**学び**を深めたい。

・計５回の**英語**で**茶道**の講義を聞くことによって，自分の**英語**力も，**茶道**の知識も徐々についてきたように感じます。抹茶を作るときの注意事項や，美味しく抹茶を作る方法を**学ぶ**ことができてよかったです。

・これまで小学校や中学校で**茶道**についての授業などを受けてきましたが，その時の**茶道**の授業内容などについてはほとんど忘れていてしまっていたため，このように**英語**を通じて**茶道**に触れることで非常に良い経験となっているなと感じました。このように英語を通じて茶道について学んでいくことで外国人に**英語**で**茶道**を説明できるようになっていけるよ

うにより深い**学び**をしていきたいと考えています。

5. 6.　第６回の課題の感想

第６回目はお辞儀の仕方を学ぶ動画を使用した。第６回のテキストデータは文章数 1,405, 総抽出語数 40,157 語，分析対象語数 15,473 語であり，異なり語数 1,988 語，分析対象異なり語数 1,635 語であった。表６は「第６回の課題の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。動詞では「驚く」が，形容詞では「面白い」が，形容動詞では「大切」「フォーマル」「大事」が上位に頻出していた。

表６　「第６回の課題の感想」に頻出した動詞と形容詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
１位	思う	465	細かい	60	大切	70
２位	知る	233	多い	51	フォーマル	47
３位	感じる	169	難しい	44	大事	33
４位	学ぶ	143	良い	33	正式	27
５位	見る	140	深い	24	丁寧	26
６位	行う	130	美しい	23	重要	24
７位	驚く	91	正しい	19	大変	20
８位	使う	83	面白い	17	簡単	19
９位	分かる	70	素晴らしい	16	必要	19
10 位	違う	57	詳しい	13	様々	17

図６は「第６回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。強い共起関係として「お辞儀」-「種類」-「知る」-「驚く」が見られた。

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「お辞儀」-「種類」-「知る」-「驚く」に関する記述例

・まず**お辞儀**に３つの**種類**があることに**驚いた**。よくテレビなどで見たことがあったが，種類があることは知らなかった。**お辞儀**をする相手が違う場合などで**種類**が変わり，相手と目を合わせることはとても重要であると知った。

・まず，お**辞儀**に３つの**種類**（真・行・草）があることに**驚いた**し，それぞれに名前と意味，動作の手順が決まっていることに，「お**辞儀**って自分が思っているよりも深いものなんだなー」と思った。お**辞儀**をするときに，手のひらを付けてお**辞儀**をすると思っていたけど，手のひらを付けずにお**辞儀**することを知れて，細かいところまで形が決まっているんだなと感心した。また，お**辞儀**をする対象・相手によって形を使い分けるところが日本人の敬う心を存分に引き出しているなと感じた。

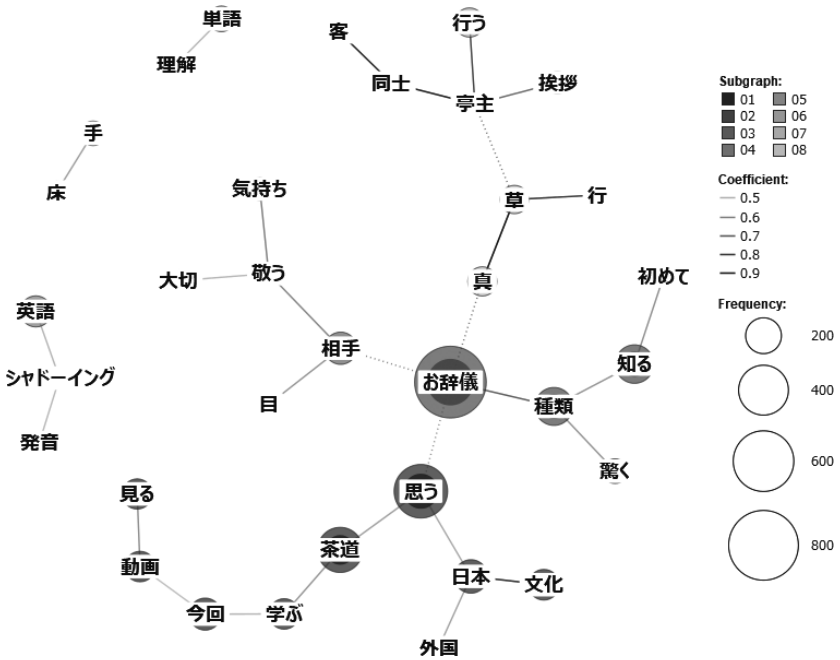

図６ 「第６回の課題の感想」の共起ネットワーク分析の結果

5. 7.　最後に行った質問紙調査の結果

ARCS 動機づけの項目に関しては各項目の回答した人数と割合（パーセント）を示した。表７は項目１「茶道を英語で学ぶことは楽しかった」の結果である。「茶道を英語で学ぶことは楽しかった」という問いに対して 74.2% の学生が「まあまああてはまる」「あてはまる」と回答していた。

表７　項目１「茶道を英語で学ぶことは楽しかった」の結果

	度数	パーセント
あてはまらない	15	5.2
あまりあてはまらない	60	20.6
まあまああてはまる	134	46.0
あてはまる	82	28.2

表８は項目２「茶道を英語で学ぶことはやりがいがあった」の結果である。「茶道を英語で学ぶことはやりがいがあった」という問いに対して 78.8% の学生が「まあまああてはまる」「あてはまる」と回答していた。

表８　項目２「茶道を英語で学ぶことはやりがいがあった」の結果

	度数	パーセント
あてはまらない	13	4.5
あまりあてはまらない	48	16.7
まあまああてはまる	148	51.6
あてはまる	78	27.2

表９は項目３「今回学んだ茶道の英語は理解できた」の結果である。「今回学んだ茶道の英語は理解できた」という問いに対して 83.9% の学生が「まあまああてはまる」「あてはまる」と回答していた。

表９　項目３「今回学んだ茶道の英語は理解できた」の結果

	度数	パーセント
あてはまらない	9	3.1
あまりあてはまらない	37	12.9
まあまああてはまる	166	57.8
あてはまる	75	26.1

表 10 は項目４「茶道を英語で学ぶことに満足した」の結果である。「茶道を英語で学ぶことに満足した」という問いに対して 80.1% の学生が「まあまああてはまる」「あてはまる」と回答していた。

表 10　項目４「茶道を英語で学ぶことに満足した」の結果

	度数	パーセント
あてはまらない	14	4.9
あまりあてはまらない	43	15.0
まあまああてはまる	151	52.6
あてはまる	79	27.5

5. 8.　自由記述式の結果

「茶道を英語で学んだ感想を自由に書いてください」という自由記述式の回答は毎回の課題の感想と同様に KH Coder で分析を行った。テキストデータは文章数 353, 総抽出語数 7,670 語，分析対象語数 3,143 語であり，異なり語数 723 語，分析対象異なり語数 555 語であった。以下は「最後の感想」の動詞・形容詞・形容動詞の頻出語彙である。動詞では「学ぶ」「知る」「分かる」が，形容詞では「楽しい」「難しい」「面白い」「嬉しい」が，形容動詞においては「新鮮」「大変」が上位に抽出された。

表 11　「最後の感想」の頻出動詞と形容詞

	動詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
1 位	学ぶ	101	楽しい	41	新鮮	13
2 位	知る	97	難しい	40	大変	12
3 位	思う	65	多い	21	新た	7
4 位	感じる	29	面白い	15	簡単	4
5 位	学べる	26	良い	13	正直	4
6 位	触れる	18	詳しい	9	非常	4
7 位	出来る	17	深い	7	重要	3
8 位	分かる	17	嬉しい	4	身近	3
9 位	見る	16	細かい	4	独特	3
10 位	覚える	14	無い	4	有意義	3

図 7 は「最後の感想」の共起ネットワーク分析の結果である。強い共起関係として「茶道」-「英語」-「知る」-「面白い」-「学べる」-「同時に」が見られた。

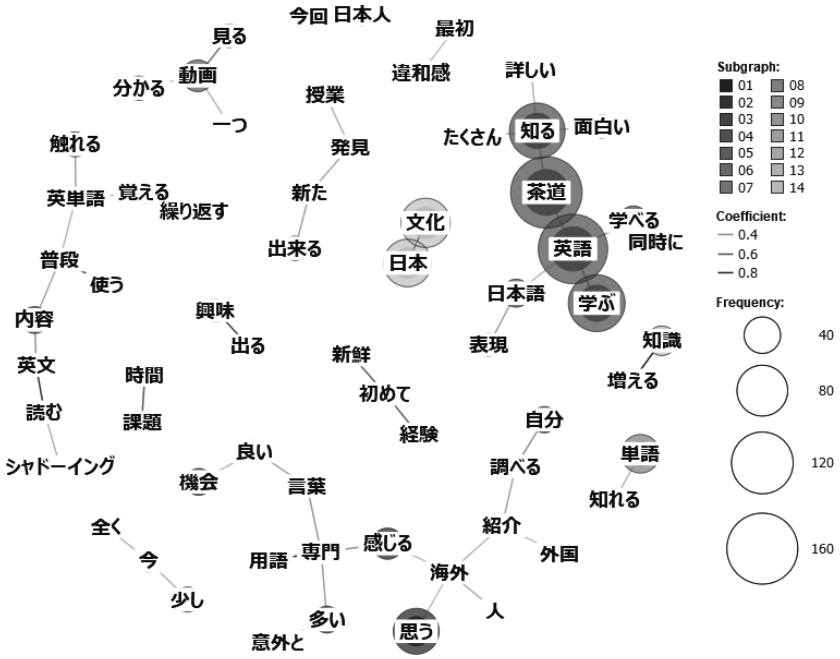

図 7 「最後の感想」の共起ネットワーク分析の結果

以下は上記の結果に関係する実際の学生の感想の記述例である。

「難しい」「大変」「楽しい」「面白い」「嬉しい」「興味深い」に関係する記述例

・**難しい**文法や単語がたくさん出てきて，**大変**でしたが，その分**面白かった**です。

・知らない単語が沢山出てきて，とても勉強になった。茶道自体も名前だけでどういうものかは知らなかったので，今回「英語で茶道」で学んで**面白かった**。日本語で同じ動画を見たとしてもあまり印象に残らなかったと思います。知らない単語が出てきたときに調べたり，訳を考えたりすることでより知識が定着すると思いました。最初はわからない単語だらけで嫌になることもありましたが，とても**面白かった**です。
・日本文化を英語で学ぶといった発想が個人的には新しかったので**面白い**と思いました。
・日本文化の一つである茶道を英語で勉強することは新鮮で**面白かった**です。また英語にすることによって新たな発見なども見つかり**大変**勉強になりました。
・英語で学んだので自分が日本人なのに茶道を全然知らないことをさらに知らされた。日本文化も学べるし英語も学べて**面白い**発想だなと思いました。

「新鮮」に関係する記述例

・日本文化の一つである茶道を英語で勉強することは**新鮮**で面白かったです。また英語にすることによって新たな発見なども見つかり大変勉強になりました。
・今まで日本の文化であるのに知らなかったことを英語で学べたのは**新鮮**でした。日本語で聞くより集中して聞かないといけなかったのでいつもより身についた気がします。
・日本の文化を異国語（英語）で勉強することは**新鮮**で，日本語であまり興味ないことを学ぶより英語で学ぶことで集中力等が向上しインプットしやすくなった。
・英語をそのまま覚えようとしてもなかなか覚えられないが，茶道を通して英語を学べるというところが**新鮮**で学びやすいものであると感じました。楽しみながら覚えられないと英語を勉強するのは大変であることも改めて痛感しました。
・普段触れることのない表現や英単語に触れることができた上，実際に動きながら英文を紹介していたのでイメージがしやすく，頭中で英文を構成しやすくなりました。普段からの勉強というと，机に向かってすると言うイメージが大きいですが，今回の活動は現代にあった方法で**新鮮**でした。

「茶道」「英語」「知る」「面白い」「学べる」「同時に」に関係する記述例

・今まで茶道に触れる機会がなく，そして英語で学ぶことによって，**英語**と**茶道**どちらとも**同時に**学べるので非常に良かった。
・**英語**の授業以外の場でも**茶道**について学ぶ機会はほとんどないので**茶道**と**英語**を**同時に学ぶ**ことができてとても有意義な特別課題でした。
・そもそも，茶道についてほとんど知識がなかったので，日本文化について学ぶと**同時に英語**の勉強にもなって一石二鳥であると感じました。

6. 考察

ここでは上記の結果から，本研究に参加した学生が茶道を英語で学ぶことをどのようにとらえたかについて「ARCS 動機づけ」「茶道を英語で学ぶ」「英語教育」の 3 つの観点から考察していく。

6. 1. ARCS 動機づけの観点から

ARCS 動機づけをもとに作成した質問項目のすべてにおいて 7 割以上の学生が，「あてはまる」または「よくあてはまる」と回答していた。これらのことから本研究に参加した学生は茶道で英語を学ぶことを楽しく，やりがいがあり，学んだ内容もしっかり理解でき，満足したと推測できる。さらに，「茶道を英語で学んだ感想を自由に書いてください」という自由記述式の回答においても，「楽しい」「面白い」「嬉しい」「興味深い」「新鮮」など肯定的な表現が多く頻出していた。特に，「茶道を通して英語を学べるというところが新鮮で学びやすいものであると感じました」などの記述が多くみられ，本研究に参加した学生にとって英語で茶道を学ぶということがはじめての体験なので「面白い」「楽しい」「新鮮」と感じたことがわかる。以上のことにより，本研究で作成した「英語で茶道」の動画は学生の探求心を刺激できる教材であったことが伺われる。

一方，毎回の課題や最後の感想の回答において「難しい」という形容詞が多く頻出しており，さらに，20% 近くの学生が項目 3「今回学んだ茶道の英語は理解できた」において「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答していた。これらのことから今回の課題を内容が難しくて理解できなかった学生が一定数いたことがわかる。これは英語力が低い学生にとっては今回扱った英文が難しすぎ，さらに，茶道の知識を事前に持ち合わせていなかったことも英語の理解を難しくさせていた一つの要因であろう。特に，今回は課題として茶道の動画を学習しただけで授業での教員の十分な解説・指導を行わなかったために ARCS 動機づけの「自信」における環境づくりが不十分になり，学習の意義や達成感などを味わえなかったとも考えられる。茶道をはじめとする伝統文化は，概念だけで学ぶのではなく実際に体験することによって身につくため（山田，2018），今回のようなオンデマンド型の学習だけではなく，実際に学生が授業で茶道を体験することにより英語力が低い学生にとっても有意義な学習になることが期待できる。

6. 2. 茶道を英語で学ぶという観点から

つぎに，茶道を英語で学ぶという観点から検討していく。参加した学生の自由記述式の回答に「英語と茶道どちらとも同時に学べる」という記述が多くみられ，そのことを「よかっ

た」「とても有意義な特別課題」「一石二鳥」であると評価していた。つまり，内容に焦点をあてた英語学習を好む学生が多いことが明らかになった。

また，「日本語で聞くより集中して聞かないといけなかったのでいつもより身についた気がします」「日本語であまり興味ないことを学ぶより英語で学ぶことで集中力等が向上しインプットしやすくなった」「日本語で同じ動画を見たとしてもあまり印象に残らなかったと思います。知らない単語が出てきたときに調べたり，訳を考えたりすることでより知識が定着すると思いました」という記述からもわかるように，あまり興味のない茶道であっても英語で学ぶことにより，かえって集中できたという意見が少数ながら見られた。

つぎに，茶道を英語で学ぶ CLIL の観点から論じていく。自宅で行う課題であったため，CLIL における「協学（Community）」は行うことはできなかったが，「内容（Content）」「言語（Communication）」「思考（Cognition）」に関しては，茶道の内容を英語で学びながら日本文化や茶道についての思考が深まったことが学生の自由記述式の回答から推測できる。

たとえば，「海外に発信」「外国人に教えたい」など以下のような感想が見られた。

・日本の文化を知るだけでなく，外に発信していくことも大事だと思うので，日本の文化を英語でも学んでみようという，この試みも面白いと思いました。
・英語で抹茶の飲み方を説明できるようにして，外国人に教えられる機会があったら教えてあげられるようにしたいです。
・このカジュアル茶道なら海外に行った時に外国人に披露して一緒に出来るなと思いすごいいいなと思いました。

さらに，「日本人としてのアイデンティティー」に関することとして以下のような感想が見られた。

・まったく知らなかった茶道についてたくさんのことを学んでいけてとても嬉しいです。外国の方が日本の伝統的なものに関心が高いように，日本人である自分ももっと自国の文化を知って，学んで，実際にしてみるという行為をしていきたいなと強く感じました。
・外国人の方達が日本にきた時にやはり日本の文化に大変興味を持つと思います。やはり日本人であるからには自分の国の文化を少しでも知っておかなくてはならないと思いました。また，さらに動画などを見て勉強したいと思いました。

このように「日本文化を海外に発信すべきである」「外国人に教えてみたい」「自国の文化についてもっと知るべき」という「思考」を持つようになり，茶道が「日本人としてのアイデンティティーを育てる手段」（櫛山，2020，p. 96）としての役割を果たしたともいえるであろう。グローバル人材の育成が強く求められている昨今，自国の文化に対する理解を深めるという点からみても，茶道を取り入れた英語学習は大きな教育的効果がもたらされると考えられる。なお，今後の課題として，先行研究でも述べられているように茶道教育を導入することによって期待できる，平常心の維持，集中力向上（上村・林，2013），五感を活かし

た授業内容によって得られる効果（山本他，2021）などを研究項目に加え，さらに，アイデンティティーの育成によりどのような影響が具体的にもたらせられるかなどを明らかにし，英語で学ぶ日本の伝統文化の更なる有効性を多面的に検証すべきであろう。

6. 3.　英語教育としての観点から

ここでは英語教育としての観点から結果を考察していく。第一に，背景知識を利用した学習方法を取り入れた第 1 回の歴史や茶道の精神を学ぶ動画では，学生の感想に「予め日本語で茶道について学習していたことで，英語の解説動画を見たときに理解できるようになった。字幕のない動画だったが，このような形態であれば比較的抵抗感なく視聴できそうである」「英語で字幕をつけて，聞いてみたのですが，最初に日本語で聞いたからか，内容が結構入ってきやすかったです」「英語で聞くのは，やっぱり難しいのですが，日本語で意味を理解してからだと理解しやすいなと思いました」とあるように，日本語での背景知識をつけてから，英語のみの動画を聞くという学習方法を評価している記述がいくつかみられた。単に情報を得るための手段であるならば，英語の動画に日本語の翻訳を，日本語の動画に英語の翻訳をつけることは効果的であるが，英語学習という観点では，藤上（2013）が述べているように背景知識を活かしたリーディングを行うことの有効性は顕著であり，日本語での背景知識を与えてから，英語のみの環境を与えるほうが，英語で推測する力を伸ばすことができるため，英語学習としては望ましいといえる。このような背景知識を利用した学習方法は他の CLIL 教材にも応用できるであろう。

つぎに，シャドーイングに関して検討していく。「今回の課題を終えて，さらにシャドーイングがスムーズに行えるようになりました。アクセントにも気を付けることでイントネーションが良くなったような気がします」「第四回ということもあってシャドーイングにも少し慣れ始めているのを少しばかり実感しています。ただの音読よりもシャドーイングのほうが難易度も上がっているせいか上達スピードも速いように感じられました」「何回かシャドーイングを行うことによって自分の英語の能力が少しずつだが向上されているのかなと思うのでこの特別課題に限らず自分で英語の長文などをシャドーイングしたりしようと思う」など，シャドーイングの効果を実感している学生の感想がいくつかあった。シャドーイングは外国語学習の方法として授業などでも取り入れられており，門田（2011）はシャドーイングを繰り返すことで音声知覚が自動化され復唱能力が発達し，その結果リスニング能力が向上すると述べているが，本研究でも学生が課題を通してシャドーイングに取り組むことで，音声に対する認識力が高まり，復唱していく過程でシャドーイングが容易に感じられるようになったのではないかと考えられる。

最後に，TPR 教材という観点から検討していく。学生の感想に「実際に動きながら英文を紹介していたのでイメージがしやすく，頭中で英文を構成しやすくなりました。普段から

の勉強というと，机に向かってすると言うイメージが大きいですが，今回の活動は現代にあった方法で新鮮でした」「実際に説明されている動作が動画上で行われているのでイメージがしやすく話されている内容もそれに基づいて理解することができたと思う」という記述は多少あったが，全体的には動作に関する記述は少なかった。これは実際に動作を行うという指示は第 2 回の「お茶を飲む」以外は出さず，さらに，授業の中でそれらを行うことがなかったためであろう。つまり，作成した茶道の動画を TPR 教材として十分に活用しきれなかったといえる。今後は実際に茶道の動作を伴いながらの指導を授業の中で行い，TPR 教材としての効果的な活用方法を検討していきたいと考えている。

7. おわりに

本研究では茶道を英語で学ぶ動画を作成し，それらを大学の授業に課題として取り入れ，学習した感想を分析した。その結果，多くの学生が英語で茶道を学ぶことを「面白い」「楽しい」「新鮮」と感じていたことが明らかになった。さらに，英語で茶道を学ぶことにより，茶道や日本の文化について外国人に教えてみたいという気持ちを持つようになり，グローバル社会における日本人としてのアイデンティティーについて考えるきっかけを与えることができたのではないかと思われる。

一方で，今回は自宅での課題として動画を学習しただけであったため，CLIL 教材・TPR 教材として十分に活用しきれなったといえる。また，事前・事後での質問紙調査を行わなかったため，どのような効果があるのかを正確には測ることができなかった。ゆえに，今後の課題として，実際にお茶を飲んだり，お茶をたてたりしながらの英語の授業を行い，それらの具体的な効果を調べ，英語の授業における茶道教材としてのさらなる可能性を探求していきたいと考えている。

謝辞

本研究の動画制作にご協力をいただいたハワイ大学の小野晶子講師に心から感謝を申し上げます

なお，本研究は 2020 年度の東京経済大学個人研究助成費（研究番号 20-07）を受けた研究成果である。

引 用 文 献

射場智子（2021）子ども（学習者）・教室・茶室―教育の知識論と知的・道徳的情操―西南学院教職論集 2, 21-37.

門田修平（2014）インプットをアウトプットにつなぐシャドーイング　理論と実践の連携 JACET

中部支部紀要 9, 41-55.
上村真子・林武生（2013）本学における茶道教育　名古屋文化短期大学研究紀要 38, 11-14.
川原ゆかり・萩原宏美・新井浩之・廣瀬美由紀・中尾健一郎・小浦康平…安徳勝憲（2018）「茶道文化」教育の教育効果に関する探索的研究Ⅱ～ホスピタリティと社会人基礎力の経年変化～　長崎短期大学研究紀要 30, 1-13.
櫛山桐加（2020）伝統文化体験で育てるグローバル人材：いけ花・茶道・着物を主にした体験型英語授業　いけ花文化研究 8, 96-105.
経済広報センター（2013）グローバル人材の育成に関するアンケート～「グローバル人材の育成に関する意識調査」の結果について～
https://www.kkc.or.jp/data/question/00000092.pdf（参照 2021 年 10 月 24 日）
四方由美・大谷奈緒子・北出真紀恵・小川祐喜子・福田朋実（2017）犯罪報道の共起ネットワーク分析（1）　宮崎公立大学人文学部紀要 25（1), 63-80.
嶋内麻佐子・橋本信博・柳井駿平・橋本健夫（2021）総合的な学習の時間と学校裁量の時間を活用した新設小・中学校の未来志向型教育の試み　―茶道教育を通した徳性と品格の涵養―　長崎国際大学教育基盤センター紀要 4, 37-44.
鈴木克明（1995）『魅力ある教材』設計・開発の枠組みについて―ARCS 動機づけモデルを中心に―　教育メディア研究 1, .50-61.
田中真奈美・カレイラ松崎順子（2012）茶道を取り入れた英語授業の実践　東京未来大学研究紀要 5, 83-90.
日本経済団体連合会（2015）「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート」主要結果
https://www.keidanren.or.jp/policy/2015/028_gaiyo.pdf（参照 2021 年 10 月 24 日）
樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析　内容分析の継承と発展を目指してナカニシヤ出版
藤上隆治（2013）リーディング活動における背景知識の効果：英語を専門としない大学生に対する授業実践を中心に　実践女子大学 FLC ジャーナル 8, 105-118.
山田佳古（2018）留学生と児童との共修についての実践研究：茶道・伝統的な遊びを通して　和歌山大学クロスカル教育機構研究紀要 1, 39-45.
山本芳華・陳虹彣・中池竜一（2021）大学での茶道教育がもたらしたもの：平安女学院大学での学生アンケート調査の分析 伝統文化 1, 56-73.
Keller, J. M. (1983). Motivational design of instruction. In C. M. Reigeluth (Ed.), *Instructional-design theories and models: An overview of their current status* (pp. 383-434).Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.